

献血推進の施策について（厚生労働省の取組）

1. 普及啓発

（1）若年層に対する普及啓発

①中学生への普及啓発

献血への理解を促すことを目的としたポスターを全国の中学校に配布

※令和元年度より、学校における働き方改革の観点から、希望調査を実施

- ・令和5年度：10,616校に3.2万枚を配布
- ・令和6年度：10,890校に3.3万枚を配布
- ・令和7年度：10,636校に3.2万枚を配布

②高校生への普及啓発

ア 献血に関する副読本（けんけつ HOP STEP JUMP）を全国の高校に配布

※令和元年度より、学校における働き方改革の観点から、希望調査を実施

- ・令和5年度：4,958校に生徒用82万部、教員用5.0万部を配布
- ・令和6年度：5,032校に生徒用92万部、教員用5.0万部を配布
- ・令和7年度：4,361校に生徒用73万部、教員用4.4万部を配布

イ 高等学校等における献血に触れあう機会の受入れの推進

平成23年度から毎年度、文部科学省の協力を得て、高等学校等における献血に触れ合う機会の一環として、日本赤十字社が実施している学校献血や献血セミナーを積極的に受けいれてもらえるよう、高等学校等関係者に協力を依頼している。

③大学生等への普及啓発

平成30年度からの取組として、大学、短期大学、専門学校等に献血の啓発ポスターを配布

- ・令和5年度：5,186校に2.3万部を配布
- ・令和6年度：4,927校に2.3万部を配布
- ・令和7年度：4,850校に2.2万部を配布

④主に10代、20代の若年層を対象とした普及啓発

「はたちの献血」キャンペーン（毎年1～2月）の広報用ポスターを都道府県及び関係団体等に配布

- ・令和5年度：4.0万枚を配布
- ・令和6年度：4.0万枚を配布
- ・令和7年度：3.9万枚を配布

⑤献血血液の確保対策事業（令和6年度開始）

- ア 中高生向け献血啓発動画（令和7年5月16日公表）
- イ 献血普及啓発ボランティアによる活動発表会（令和8年2月14日開催）
- ウ 中学生向け献血啓発テキスト「教えて！けんけつちゃん～中学生に知ってほしい、献血のほなし～」作成（令和7年12月15日配布）

（2）その他の普及啓発

①「愛の血液助け合い運動」（毎年7月）の実施

ア 広報用ポスターを都道府県及び関係団体等に配布

- ・令和6年度：3.8万枚を配布
- ・令和7年度：3.8万枚を配布
- ・令和8年度：3.9万枚を配布

イ 献血運動推進全国大会の開催

- ・令和5年度：7月26日 千葉県で開催
- ・令和6年度：7月18日 岐阜県で開催
- ・令和7年度：7月16日 宮城県で開催
- ・令和8年度：7月10日 鳥取県で開催予定

②テレビ、ラジオ、新聞等を積極的に活用した普及啓発の実施

- ・令和4年度：政府広報オンライン、ラジオ、インターネットテキスト広告、新聞、厚生労働省広報誌「厚生労働」、Twitter、Facebook
- ・令和5年度：政府広報オンライン、ラジオ、インターネットテキスト広告、新聞、厚生労働省広報誌「厚生労働」、X（旧Twitter）、Facebook
- ・令和6年度：政府広報オンライン、新聞、厚生労働省広報誌「厚生労働」、X（旧Twitter）、Facebook
- ・令和7年度：政府広報オンライン、ラジオ、新聞、厚生労働省広報誌「厚生労働」、X（旧Twitter）、Facebook

2. 若年層の献血者数の増加に向けた取組

将来にわたり安定的に血液を確保するため、平成29年度から、日本赤十字社及び都道府県と協力の上、献血者数が減少傾向にある10代から30代の年代別献血者数の目標値を設定し、若年層の献血者数の増加に向けた取組を実施している。

		10代	20代	30代
令和6年度	実績	212,373人	661,991人	707,258人
令和7年度	目標(計画)	261,520人	808,591人	906,742人
	実績	215,063人	651,483人	692,506人
対令和6年度実績比		101.3%	98.4%	97.9%
令和7年度達成率		82.2%	80.6%	76.4%

(参考) 延べ献血者数に占める割合

	10代	20代	30代	40代	50代・60代	延べ献血者数
昭和60年度	20.3%	30.3%	23.8%	16.2%	9.3%	8,763,037
平成元年度	18.0%	28.5%	22.6%	19.1%	11.8%	7,765,013
平成5年度	16.1%	30.5%	21.2%	19.0%	13.3%	7,138,298
平成10年度	11.0%	32.6%	22.8%	18.7%	15.0%	6,136,449
平成15年度	8.9%	26.1%	26.3%	19.4%	19.2%	5,606,457
平成20年度	5.9%	22.3%	27.3%	23.3%	21.2%	5,137,612
平成25年度	5.9%	18.3%	21.7%	28.1%	26.0%	5,156,325
平成30年度	5.6%	15.2%	17.1%	28.1%	34.0%	4,735,944
令和7年度	<u>4.3%</u>	<u>13.0%</u>	<u>13.8%</u>	<u>20.8%</u>	48.0%	<u>5,001,234</u>

端数処理しているため、合計が必ずしも100%にはならない。

参考：普及啓発資材（厚生労働省作成）について

(1)①中学生を対象とした献血への理解を促すポスター



(1)②ア 高校生向けテキスト「けんけつ HOP STEP JUMP」



(1)②イ「学校における献血への理解増進に向けた取組について（依頼）」

小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等に届けられた献血啓発資材の活用等、献血への理解増進に向けた取組をお願いします。

厚 務 省
令和6年6月10日

各都道府県・指定都市教育委員会学校保健課担当
各都道府県私立学校協会事務課
附属中学校を置く各国立大学法人事務局
小中高等学校を教養する学校教員会を所轄する
株式会社特別区教育課上・中・高専門課を
受けた各地方公共団体の学校教育委員会担当

文部科学省総合政策局健康教育部、教育部

学校における献血への理解増進に向けた取組について（依頼）

近年、少子化の影響等により若年層（10代から30代）の献血者数の減少が懸念されています。本来にわたって家庭的に献血を確保するため、献血可能な年齢の若年層も若く、若年層を対象とした献血の普及啓発が重要である。令和7年度より10月に開始予定の「献血促進等と改革の基本方針2025」に、小中学生から献血に対する理解を促ることが盛り込まれたところであります。

この度、厚生労働省より、令和6年6月9日付事務連絡で学校における献血啓発活動について周知等の協力依頼（別添1参照）がございましたので、この機会を機に、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等において、令和7年度及び10月に開始予定の献血啓発資材を活用いただくとともに、都道府県若年層献血センター等が行う出張講座や学校献血等により、献血に馴染みやすい機会を積極的に受け入れるなど、献血への理解増進に向けて取り組んでいただきますようお願いいたします。

また、文部科学省では、「現代の社会課題（社会教育）推進事業（策）」において、例えば、日本赤十字社の職員や医師、輸血を受けた患者等を外務講師として活用する際の経費の支援を行うこととしていますので、併せて御活用ください（別添2）。

このことについて、都道府県・指定都市教育委員会におかれては所管の学校及び市内の市区町村教育委員会に対して、都道府県私立学校協会事務課におかれては所轄の学校法人等を通じてその設置する学校に対して、所

(1)③大学生等を対象とした献血啓発ポスター



(1)④「はたちの献血」キャンペーンポスター



(1)⑤中学生向け献血啓発テキスト作成



(2)①「愛の血液助け合い運動」ポスター

